

千葉大学医学部附属病院で治療を受けられた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年4月3日

食道・胃腸外科

食道・胃腸外科では、大腸全摘時の回腸囊肛門到達困難度の予測に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2008年1月1日～2025年9月30日の間に食道胃腸外科で大腸全摘術を受けられた方

1. 研究課題名

「CT画像を用いた大腸全摘後の回腸囊肛門到達困難度予測」

2. 研究期間

2025年承認日～2027年3月31日

この研究は、附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

潰瘍性大腸炎や家族性大腸腺腫症に対して病状によっては大腸全摘術が行われます。大腸全摘術を行った後、通常は回腸囊（小腸で作った袋）を肛門までけん引して肛門と吻合します。その際に回腸囊がなかなか肛門に届かない方がいます。なかなか届かないこと（到達困難性）を事前に予測できれば、様々な延長手技を手術中に行うことによって手術を円滑に進めることができます。

手術前に撮影するCT画像を用いて到達性を予測する方法を開発するのが目的です。

4. 研究に用いる情報の種類

年齢、性別、身長、体重などと手術前に測定した採血データ、手術前に撮影した CT 画像、手術所見などを用いて検討を行います。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：食道・胃腸外科 講師 大平 学

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院食道・胃腸外科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

食道胃腸外科 講師 大平 学

043（222）7171 内線 5294